第３回
北海道高等学校選抜登山大会

２０２４年8月２４日(土)･２５日(日)

美瑛岳（２，０５２m）

主　　催　北海道山岳・スポーツクライミング連盟

共　　催　北海道高等学校体育連盟登山専門部

事務局校　北海道旭川工業高等学校

開閉会式次第

開会式

開式の言葉

大会委員長挨拶・諸注意

各隊長紹介

各学校自己紹介

大会役員紹介

閉式の言葉

閉会式

開式の言葉

大会委員長挨拶・講評

各隊長講評

閉式の言葉

＜大会役員＞

大　会　長	北海道山岳・スポーツクライミング連盟会長	石　井　昭　彦
副 大 会 長	北海道高体連登山専門部長・北海道旭川工業高等学校長	中　島　泰　彰
大会委員長	北海道高体連登山専門部専門委員長(旭川工業高等学校)	小　池　圭　太
A 隊 隊 長	市立函館高等学校	塩　谷　和　樹
B 隊 隊 長	北海道室蘭栄高等学校	日　向　真　樹

審査員及びサポート

内海　健一（旭川工業）	丹野　裕之（旭川西）	三戸　　渉（室蘭栄）
玉森　　一（釧路湖陵）	水野　秀人（帯広大谷）	高橋美香子（北広島）
岡崎　知之（旭川北）	藤本　和夫（岩見沢東）	城座　研一（富良野緑峰）
梅川　悟史（岩見沢東）	中新井　尊（北見北斗）	木谷　弥彦（小樽潮陵）
柴田　　一（室蘭栄）	宮澤　宜法（小樽潮陵）	藤原　幸二（有朋苫小牧）
木村　宣幸（北広島）	上内　智英（釧路湖陵）	日野　秀一（旭川工業）
白戸　愁真（旭川工業）	飯田　一三（旭川東）	増田　光博（旭川東）
畑野　和宏（遠軽）	細野　　護（旭川工業）	及川　香織（旭川北）

大会本部　　小池　圭太(旭川工業)　　三戸　　渉（室蘭栄）

事務局校　　北海道旭川工業高等学校

＜事故対策委員会＞

副 大 会 長	中　島　泰　彰
大会委員長	小　池　圭　太
Ａ隊隊長(男子)	塩　谷　和　樹
Ｂ隊隊長(女子)	日　向　真　樹
事 務 局 校	小　池　圭　太
サ ポ ー ト	大会参加校山岳部顧問

＜事故発生時の手順＞

事故発生 → 負傷者の状態把握及び精神の安定を図る → 応急措置

◎負傷発生に関する方向は正確かつ詳細に行う。

◎負傷者を父母に引き渡すまでは付き添い看護に当たる。

事故対策委員会
１　１１０番通報、あるいは救急車の出動要請。または最寄りの病院への搬入。
２　保護者への連絡(日本学校健康会の手続き)
３　関係機関への報告(書類作成)

＜関係機関連絡先＞

北海道警察旭川方面本部地域課	078-8511	旭川市 1 条通 25 丁目 487-6	0166-35-0110
旭川東警察署美瑛交番	071-0207	美瑛町中町 4	0166-92-2036
美瑛消防署	071-0208	美瑛町本町 4 丁目 5 番 20 号	0166-92-2029

令和６年度　第３回北海道高等学校選抜登山大会　開催要項

１　主　催　　北海道山岳・スポーツクライミング連盟

２　共　催　　北海道高等学校体育連盟登山専門部

３　期　日　　令和６年８月２４日（土）から２５日（日）まで

４　会　場　　美瑛岳（2,052m）　望岳台往復コース

５　テーマ　　「十勝岳連峰について」

６　集結地　　国立大雪青少年交流の家　〒071-0235 北海道上川郡美瑛町白金　TEL 0166-94-3121
※交流の家敷地内の野営場にて幕営

７　日　程

１日目　２４日（土）
１３：００　国立大雪青少年交流の家　受付
１３：３０　開会式（交流の家野営場）
１３：４５　顧問打ち合わせ（選手確認、審査について）
１４：００　テント設営審査
１４：３０　ペーパーテスト　※下敷き持参
１５：３０　炊事開始　審査
１６：００　天気図審査　※ラジオ、下敷き持参
１７：００　顧問会議、安全対策会議
２１：００　就寝

２日目　２５日（日）　男女ともサブザック行動
４：００　起床
４：３０　朝食、テント撤収　移動（監督の車など）
５：３０　望岳台　登山開始
９：３０　美瑛岳
１３：００　望岳台
１３：３０　閉会式　解散
※荒天対策　　十勝岳避難小屋往復登山

８　参加人数　選手：８０名（男４８、女３２）　役員：２７名（男２６、女１）　計１０７名

９　参加資格
（１）北海道高体連に加盟している高等学校の生徒。
（２）高体連主催大会参加者災害補償制度に加入した者、または加入の意志がある者。
（３）年齢は４月２日起算とし18歳未満であること。
（４）参加生徒は、健康診断を受け在学する校長が支障ないと判断した者とする。
（５）その他は、北海道高等学校体育連盟の大会開催基準による。

10　パーティ編成
（１）１パーティー選手４名、高校の教員である監督１名。
（２）男子パーティーをＡ隊、女子パーティーをＢ隊とする。

11　表　彰　大会終了後　登山専門部webページ等で結果を公表する。

12　携行品
（１）幕営に必要な野営用具・食料・非常食・その他一般用具
「全国大会に準ずる」（ピッケル・アイゼンは不要、ストックの使用は好ましくない。）
（２）地図は国土地理院25000分の1地形図「白金温泉」を用意すること。原本以外はコピーでも可。
（３）時計の高度計機能やＧＰＳ機能は使用しないこと。ウエアラブル端末・スマートフォン等の電子機器は大会中使用しないこと。カメラ機能は隊長の指示に従うこと。
（４）天気図用紙は「気象協会１号様式」を用意すること。

13　記名様式
（１）メインザック・サブザック・ザックカバーの外側中央に、学校名と選手の番号を記入した布Ａ（縦10cm、横14cm程度）をつける。布は参加校で用意する。
（２）行動中に着用する帽子の前面に、登山専門部より配付されたゼッケンを縫い付けること。安全ピンの使用は不可。
（３）テントの張り綱には学校名を記入した布Ｃ（縦30cm、横40cm程度）をつける。布は参加校で用意する。
＊（１）と（３）は識別しやすく直接記入しても良い。

14　事故対策
（１）安全対策委員会を置き、安全登山に万全を期す。
（２）緊急を要する場合は、安全対策委員会要領により対策を講ずる。

15　その他
（１）出場前に選手に事故が生じた場合のみ、監督会議にて変更し補欠の出場を認める。ただし、参加申込書に記載された２名以外は認めない。
（２）本大会の計画書を作成し、受付の際に２部提出すること。
（３）健康保険証または健康保険証のコピーを持参すること。
（４）各パーティの食事については、すべて各パーティで用意すること。また、感染症対策を踏まえ食事の準備をすること(α米、レトルトのみでも可)。
（５）１パーティーにつき、テントを１張り用意すること。
（６）監督(顧問)の食事についても、すべて各自で用意すること。また、監督（顧問）はテント泊または車中泊とする。

16　付記
（１）マスクは必要に応じて着用すること。その他、感染予防のガイドラインに従い行動すること。

17　参加経費　　選手一人あたり６００円、監督（顧問）２５００円
※大会当日受付にて現金でお支払いください。

★申込方法
道高体連登山専門部webページ　http://www.tozan-koutairen.hokkaido-c.ed.jp/　より参加申込書をダウンロードして必要事項を入力後下記アドレスに送信してください。
原本は開会式当日持参してください。

★申込〆切　　令和６年７月１７日(水)まで

★申込先　kei-koike@hokkaido-c.ed.jp
北海道高等学校体育連盟登山専門部　専門委員長　小池圭太
〒078-8804 旭川市緑が丘東４条１丁目１－１　北海道旭川工業高等学校内
TEL 0166-65-4115　Fax 0166-51-2818

＜確認事項＞
1　参加人数については、各学校男女各１パーティのみとします。
（学校の都合で、パーティの人数が３名や５名などはご相談ください。審議します。）
2　全道大会の審査基準に基づいて審査を行います。
3　参加されるすべての顧問の先生に大会運営のお手伝いをお願いします。審査等もご協力をお願いします。

美瑛岳コース概況

美瑛岳へのアプローチはいくつかあるが、今回は道道 966 号十勝岳温泉美瑛線（十勝岳スカイライン）の美瑛町にある標高 930m の望岳台からスタートする。現在も活発に火山活動する十勝岳は、噴火警戒レベル１である。

望岳台には、 2016 年に十勝岳望岳台防災シェルターが設置された。突発的な噴火による噴石から身を守るための緊急避難施設（避難シェルター）で、非常品や食料などを備蓄しているほか、非常用発電機も設置されており、即時救出が困難な場合には、一時滞在施設としての機能を備えている。トイレ、避難スペースは 24 時間開放しており、大型モニターによる火山の監視映像や火山活動・気象情報等の表示による情報発信も行われているが、冬期間は道道 966 号も併せて閉鎖されている。

望岳台からは、十勝岳連峰を見渡すことができる。南から富良野岳、三峰山、上富良野岳、上ホロカメットク山、十勝岳、美瑛岳、美瑛富士、石垣山、ベベツ岳、オプタテシケ山とつづく山容は壮観である。

登山道は、火山灰と火山れきの緩やかで平坦な斜面が続くが、死者・行方不明者 144 名を出した 1926 年 5 月 24 日の噴火時の大規模な泥流のあとでもある。 植生は少しずつ回復しており、ハイマツ・ミヤマハンノキ、６月から８月にかけては、イソツツジ、 マルバシモツケ、 ウラジロタデ、シラタマノキ、イワブクロなどの高山植物もところどころに見られる。

十勝岳避難小屋の直下の 1258m にある分岐を東に進み小さな硫黄沢を渡り尾根を少し登ると、雲ノ平のトラバースとなる。植生は豊かで、前出のものはもちろん、メアカンキンバイ、ミヤマキンバイ、ミネヤナギ、クロウスゴ、コケモモ、エゾノツガザクラ、アオノツガザクラ、ミネズオウ、イワウメなど時期によって多くの高山植物が見られる。また、ナキウサギ、キタキツネ、ギンザンマシコなども見ることができるかもしれないが、ヒグマにも注意を払おう。

雲ノ平は十勝岳の摺鉢火口、昭和火口などの中腹の斜面で、斜面のトラバースは 1500m の高度を保ちながら十勝岳を回り込む。斜面の奥からは爆裂火口をもつ美瑛岳が姿を現す。爆裂火口から続くポンピ沢にある勝瑛ノ滝は落差が 20m ありアバレ川へ下る。トラバースの終わりには、その支流である函状の沢がある。この沢は深くえぐれており、沢底まで鉄製のハシゴが設置されているが慎重に通過してほしい。沢を登りきり右手にエゾコザクラなどのお花畑を見ながら少し下ると、よい水場でもあるポンピ沢となる。ここで一息入れ、沢を渡ると崖混じりの急登が待っている。ミヤマハンノキやウコンウツギ、ウラジロナナカマド、タカネナナカマドなどのかん木の斜面である。登り切ると平坦となりしばらく進むと視界が広がり、美瑛富士との分岐に出る。この沢地形には遅くまで雪渓が残りアバレ川に下る。

分岐を右に折れ、美瑛岳の主稜線に取り付く。ここからは一気に高山帯となり、雪渓が溶けたあとから次々と高山植物が咲くお花畑が頂上まで続く。前出以外では、コメバツガザクラ、ジムカデ、イワヒゲ、イワブクロ、キバナシャクナゲ、コガネギク、初秋にはエゾオヤマノリンドウなどが咲き誇る。登山道は爆裂火口沿いを登るので、右手に雲ノ平から続くトラバース道と函状の沢、火口越しに十勝岳の豪壮な姿が眺望できる。美瑛岳山頂は爆裂火口の一角にある。火口は赤茶けた火山れきの深くえぐられた斜面でかなりの高度感がある。この先は十勝岳への縦走路となり、途中左に下ると美瑛富士とのコルへと続き、美瑛富士避難小屋からオプタテシケ山への縦走路となる。

美瑛岳は十勝岳連峰のほぼ中央に位置することもあって展望は素晴らしい。南西方向は、爆裂火口越しに木々も全くない活火山である荒々しい十勝岳、その右奥には富良野岳、さらに奥には芦別岳の夕張山地がある。十勝岳の左には独立峰のような下ホロカメットク山、さらにそのはるか向こうには、今年新たに国立公園に指定された日高山脈がある。北東方向には、アイヌ語で「槍がそこにそり立っている山」という意味をもつオプタテシケ山、右奥には百名山のトムラウシ山、左奥には大雪山系主峰旭岳をはじめとする山々を望むことができる。北にはコルを挟んですぐ近くに、平坦で意外に広い山頂をもつ美瑛富士が望まれる。

下りは来た道をもどるが、ポンピ沢への下りは、岩と急斜面に注意することと、函状の沢の通過も慎重にお願いしたい。

出　場　団　体

Ａ隊（男子隊）隊　長　　塩谷　和樹（市立函館）

副隊長　　木谷　弥彦（小樽潮陵）　　飯田　一三（旭川東）

ゼッケンＮｏ．　６			
1 北海道北広島高等学校	監督	木村　宣幸	
	CL	高橋明斗	2
	SL	大澤広祥	2
	3	杉浦拓実	2
	4		
	補1		
	補2		

ゼッケンＮｏ．　１９			
2 北海道旭川北高等学校	監督	岡崎　知之	
	CL	白鳥　涼和	2
	SL	久保　蒼月	2
	3	棚田　優輝	2
	4	菅野　敦也	2
	補1		
	補2		

ゼッケンＮｏ．　２３			
3 北海道遠軽高等学校	監督	畑野　和宏	
	CL	三谷　琉偉	2
	SL	吉岡　侑希	2
	3	辻　　草大	2
	4	松田　一希	2
	補1	京谷　匠真	2
	補2	加藤　拓磨	2

ゼッケンＮｏ．　２８			
4 北海道釧路湖陵高等学校	監督	玉　森　　一	
	CL	齋藤　柚真	2
	SL	塩澤　宗弥	2
	3	金杉　空良	1
	4	藤原　廉望	2
	補1	茅先　伊吹	1
	補2	沢　渓竜	1

ゼッケンＮｏ．　２１			
5 北海道富良野緑峰高等学校	監督	城座　研一	
	CL	池添　日向	2
	SL	片岡　奏汰	1
	3	齋藤　修羽	1
	4		
	補1		
	補2		

ゼッケンＮｏ．　２２			
6 北海道北見北斗高等学校	監督	中新井　尊	
	CL	清永　慎吾	2
	SL	丸藤　歩希	2
	3	佐藤　息吹樹	1
	4	宮田　悠磨	1
	補1	杉山　智亮	2
	補2	大関　健斗	2

ゼッケンＮｏ．　１８			
7 北海道旭川西高等学校	監督	石丸　高志	
	CL	和田　翔	2
	SL	高橋　隼弥	2
	3	菊地　佑思	1
	4		
	補1		
	補2		

ゼッケンＮｏ．　１４			
8 北海道小樽潮陵高等学校	監督	木谷　弥彦	
	CL	坂　光國	
	SL	藤本　遥登	
	3	中川　英虎	
	4		
	補1		
	補2		

ゼッケンＮｏ．　９			
9 市立函館高等学校	監督	塩谷　和樹	
	CL	井岸□大樹	2
	SL	柄澤　大揮	2
	3		
	4		
	補1		
	補2		

ゼッケンＮｏ．　１６			
10 北海道岩見沢東高等学校	監督	梅川　悟史	
	CL	浅野　　優	2
	SL	柴田　大輔	1
	3	逢坂　勇矢	1
	4	成田　承伸	1
	補1		
	補2		

ゼッケンＮｏ．　１７			
11 北海道旭川東高等学校	監督	飯田一三	
	CL	場崎　道	1
	SL	吉田　虎太郎	1
	3	鳥羽　優絆	1
	4	峯田　真郷	1
	補1	松本　悠希	1
	補2		

ゼッケンＮｏ．　２０			
12 北海道旭川工業高等学校	監督	白戸　愁真	
	CL	中村　泰輔	2
	SL	斎藤　翔太	2
	3	古俣　櫂	1
	4	野々村　悠哉	1
	補1	佐藤　将城	2
	補2	向井　陽生	2

ゼッケンＮｏ．　１２			
13 北海道室蘭栄高等学校	監督	日向　真樹	
	CL	山本有恭	2
	SL	足立悠来	1
	３	蝦名悠平	1
	４	高田真太郎	1
	補1	千葉翼	1
	補2	山田虹斗	1

出　場　団　体

Ｂ隊（女子隊）隊　長　日向　　真樹（室蘭栄）

副隊長　細野　　護（旭川工業）　　玉森　　一（釧路湖陵）

ゼッケンＮｏ．　６			
1 北海道北広島高等学校	監督	髙橋　美香子	
	CL	河合ことね	2
	SL	山田さくら	2
	3	齊藤小春	2
	4	松田彩里	2
	補1	久野七聖	2
	補2		

ゼッケンＮｏ．　２８			
2 北海道釧路湖陵高等学校	監督	上内　智英	
	CL	飯村　真子	2
	SL	工藤　杏菜	2
	3	高岡　咲良	1
	4	近江　渚	1
	補1		
	補2		

ゼッケンＮｏ．　２１			
3 北海道富良野緑峰高等学校	監督	城座　研一	
	CL	吉田　夢望	2
	SL	古茂田　麗夏	1
	3		
	4		
	補1		
	補2		

ゼッケンＮｏ．　２２			
4 北海道北見北斗高等学校	監督	中新井　尊	
	CL	千徳さゆり	2
	SL	岡村果歩	2
	3	小野夏帆	2
	4	田仲　瑚々奈	1
	補1	大西　玲那	1
	補2	金子　莉暖	1

ゼッケンＮｏ．　１８			
5 北海道旭川西高等学校	監督	丹野　裕之	
	CL	川村　有梨紗	2
	SL	石本　千空	1
	3	三浦　琉那	2
	4		
	補1		
	補2		

ゼッケンＮｏ．　１４			
6 北海道小樽潮陵高等学校	監督	宮澤　宜法	
	CL	東野　一花	2
	SL	髙嶋　由夏	1
	3	岩松　莉香	1
	4		
	補1		
	補2		

ゼッケンＮｏ．　１６			
7 北海道岩見沢東高等学校	監督	梅川　悟史	
	CL	千葉　まひろ	2
	SL	藤本　くるみ	1
	3	坂　友里恵	1
	4		
	補1		
	補2		

ゼッケンＮｏ．　１７			
8 北海道旭川東高等学校	監督	増田光博	
	CL	中村　小雪	1
	SL	迫　さらら	2
	3	菅原　柚月	1
	4	榊原　篠	1
	補1	小林　小桜	2
	補2		

ゼッケンＮｏ．　１２			
9 北海道室蘭栄高等学校	監督	柴田　一	
	CL	清野秀夏	2
	SL	成田明日香	1
	3	長沼夏音	1
	4	藤野百花	1
	補1	下澤風那	1
	補2	伊藤ひとみ	1

令和６年度　第３回北海道高等学校選抜登山大会

参加高等学校・参加人数一覧

○男子

	ゼッケン	学　校　名	選手	顧問
1	6	北海道北広島高等学校	3	2
2	19	北海道旭川北高等学校	4	2
3	23	北海道遠軽高等学校	4	1
4	28	北海道釧路湖陵高等学校	6	2
5	21	北海道富良野緑峰高等学校	3	1
6	22	北海道北見北斗高等学校	4	1
7	18	北海道旭川西高等学校	3	2
8	14	北海道小樽潮陵高等学校	3	2
9	9	北海道市立函館高等学校	2	1
10	16	北海道岩見沢東高等学校	4	2
11	17	北海道旭川東高等学校	4	2
12	20	北海道旭川工業高等学校	4	5
13	12	北海道室蘭栄高等学校	4	3
		合計	48	26

○女子

	ゼッケン	学　校　名	選手
1	6	北海道北広島高等学校	5
2	28	北海道釧路湖陵高等学校	4
3	21	北海道富良野緑峰高等学校	2
4	22	北海道北見北斗高等学校	4
5	18	北海道旭川西高等学校	3
6	14	北海道小樽潮陵高等学校	3
7	16	北海道岩見沢東高等学校	3
8	17	北海道旭川東高等学校	4
9	12	北海道室蘭栄高等学校	4
			32

選手合計　８０名、顧問合計２６名、役員２名　　合計１０８名